

第 36 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会（部会③）

開催記録

1 開催概要

- 日時：令和 5 年 10 月 4 日（水）09：30 ～ 11：30
- 場所：JR 東日本現地会議室
- 出席者：

表 出席者一覧

委員長	・谷川 章雄氏（早稲田大学 人間科学学術院 教授）
委員	・老川 慶喜氏（立教大学名誉教授） ・小野田 滋氏（鉄道総合技術研究所 アドバイザー） ・古関 潤一氏（ライト工業株式会社 R&D センター テクニカルオフィサー）
オブザーバー	・文化庁文化財第二課 史跡部門 ・港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課 ・港区 街づくり支援部 ・東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課 ・JR 東日本コンサルタンツ株式会社 ・東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター ・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模開発部門 ・東日本旅客鉄道株式会社 建設工事部
事務局 東日本旅客鉄道(株)	・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模開発部門 ・東日本旅客鉄道株式会社 建設工事部
サポート	・パシフィックコンサルタンツ株式会社

■ 当日配布資料

1) 議事録確認

- ・ 次第
- ・ 資料 1：第 34 回委員会（8/2）全体会議事録案
- ・ 資料 2：第 35 回委員会（9/6）部会①議事録案
- ・ 資料 3：第 35 回委員会（9/6）部会②議事録案
- ・ 資料 4：第 35 回委員会（9/6）部会③議事録案

2) 部会③

- ・ 次第
- ・ 資料 1：薩摩台場について

2 議事要旨

2.1 議事録確認

(1) 第 34 回委員会 (8/2) 全体会の議事録確認

- オブザーバーの東京都教育庁 1 名は欠席のはずなので出欠を確認すること。(東京都)

(2) 第 35 回委員会 (9/6) 部会①の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

(3) 第 35 回委員会 (9/6) 部会②の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

(4) 第 35 回委員会 (9/6) 部会③の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

2.2 部会③

(1) 開会

- 第 36 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会の部会③を開会する。(事務局)

(2) 地歴調査について

- この場所は、説明の通り江戸時代に薩摩藩が構築した薩摩台場にあたる。ここに築堤が接続している状態である。(委員長)
- 文化財調査の対象としては、薩摩台場と築堤本体、雑魚場架道橋である第 5 橋梁の 3 つに分けられる。(委員長)
- 薩摩台場は不明点も多いが、地歴調査が参考になった。雑魚場架道橋は過去の凶面が発見されたことが大きく、変遷が捉えられそうなことと、開業期の橋台が残っている可能性が分かってきた。ただし、現状をきちんと調査する必要がある。(委員長)
- これまで高輪築堤は、兵部省の反対に直面した際に大隈重信が判断して指示を出し、海上に構築したと理解されてきた。しかし近年の研究で、兵部省が反対する前に高輪築堤を作ることが意思決定されたことが明らかにされている。つまり兵部省の反対は大隈重信が高輪築堤を決断した直接的な要因ではないというのである。それでは、なぜ海上築堤が考えられたのであろうか。資料的な根拠はないが、東海道に町場がつくられ、線路

を引く余地がなかったためであろう。そうすると、なぜ海上を埋め立てるだけでもよかったのに、なぜ築堤にしたのかという疑問が残る。錦絵にも描かれる通り、築堤の内陸側は船着き場になっており、海上輸送と陸上輸送の結節点があった。これらの輸送ルートを維持しながら鉄道建設を進める判断をしたと考えると、築堤にするのが合理的だったのではないかと想定できる。具体的な文献根拠はないが、そうすると高輪築堤は、高輪海岸の町場を一気に破壊したのではなく、きちんと庶民の生活に配慮しながら近代化を進めたとみることもできる。そう考えると、雑魚場河岸周辺の遺構は、日本の鉄道史のみならず、近世社会から近代社会への移行のあり方を示す重要な遺構であると考えられる。(老川委員)

- 雑魚場架道橋の過去の橋台図面は貴重である。フィート・インチからメートルに換算した図となっており、作成年代は昭和5年以降である。元となったフィート・インチの図面があったと考える。(小野田委員)
- 薩摩台場については、まだもう少し資料収集が必要だと考える。特に近代以降の変遷が重要になる。保存活用計画では大正7年ごろまでを築堤としてとらえる見解があるが、それ以降、どのような変遷を遂げたのかも、今後の調査の事前におさえておかねばならない。雑魚場架道橋は石積みが残っているので、まずは測量をして観察をすることから始めなければならない。(委員長)
 - ← 試掘並びに現状把握の測量等、可能な限りできることは対応する。調査計画等、早めに指示をもらいたい。(JR)

(3) その他

- 本件に関して試掘調査の成果を踏まえて港区教育委員会から包蔵地指定の追加申請があり、昨日10/3付で、調査で発見された4か所が点として高輪築堤跡(港区No.208)の周知の埋蔵文化財包蔵地に追加されたことを報告する。(東京都)

<全体会・部会①・部会②・部会③終了後>

- 文化財行政からコメントをもらう。(委員長)
 - ← 部会①では、築堤が西に広がっていることに驚いたが、今後の調査を見守りたい。遺構への影響低減措置については感謝する。部会②では、南棟連壁の設置について早めに試掘位置の協議を進めたい。部会③では、雑魚場橋台が歴史的に重要ということで現状把握を進めてもらいたい。(文化庁)
 - ← 遺構の保護についての協議に感謝する。駅街区南棟の試掘、アクセス線の試掘など新たな協議も始まるので港区と共に綿密に進めていきたい。(東京都)
 - ← 記憶の鉛筆については1年半前に相談を受けている。高輪築堤を含めて文化財保護の区民意識の醸成を進めていく。築堤の様相は徐々に分かってきたが、世間の関心が高く、港区も協力して進めたい。(港区)

(4) 閉会

- 次回委員会は 11 月 1 日（水）10 時 00 分より開催を予定する。

3 議事録

3.1 議事録確認

- (事務局) 第36回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会します。
- ・ 配布資料の確認
 - ・ オブザーバー交代の連絡
 - ・ オンラインの説明
 - ・ 進行の確認
- (事務局) はじめに、オブザーバーである JR 東日本構造技術センター所長が 10 月 1 日より変更となった。
- (JR) 今日からオブザーバーで参加する。よろしくお願いします。

(1) 第34回委員会(8/2)全体会の議事録確認

(2) 第35回委員会(9/6)部会①の議事録確認

(3) 第35回委員会(9/6)部会②の議事録確認

(4) 第35回委員会(9/6)部会③の議事録確認

- (事務局) 4つの議事録について修正等の指摘はあるか。
- (東京都) 資料1について、当日オブザーバーの東京都教育庁1名は欠席しているはずなので確認してもらいたい。
- (事務局) 確認し、訂正する。

3.2 部会③

(1) 開会

- (委員長) 次第に沿って進める。

(2) 地歴調査について

- (事務局) 資料について説明する。
- (委員長) 説明に対して質問、意見はあるか。
- (委員長) この場所は、説明の通り江戸時代は薩摩藩の薩摩台場に当たる。これに築堤が接続している状態である。文化財の調査、保存措置の対象としては、薩摩台場と築堤本体、雑魚場の架道橋である第5橋梁の大きく3つに分けられる。薩摩台場は不明点も多いので、地歴調査を丁寧に行っていただきとても参考になった。雑魚場の架道橋の方は図面が

- 出てきたことが大きい。この図面を基にして変遷が捉えられそうだと
いうこと、明治 5 年の開業期の橋台が残っている可能性が高いとい
うことが分かってきた。ただし、現状をきちんと調査する必要がある。
- (老川委員) 雑魚場の架道橋に関連し、話をしたい。そもそも高輪築堤は何なのか
ということにも関係する。今までは、文献を使った精緻な研究があっ
た。そこでは、兵部省の反対に直面した際に、大隈重信が判断して指
示を出し、海上に構築したと理解されてきた。しかし近年の研究で、
兵部省が反対する前に高輪築堤を作ることが意思決定されていたこ
とが明らかにされている。つまり、兵部省の反対は、大隈重信が高輪築
堤を決断した直接的な要因ではないというのである。それでは、なぜ
海上築堤が考えられたのであろうか。資料的な根拠はないが、東海道
に町場がつくられ、陸上に線路を引く余地がなかったためであろう。
そうすると、なぜ、海上を埋め立てるだけでもよかったのに、なぜ築
堤にしたのかという疑問が残る。錦絵にある通り、築堤の内側は船着
き場になっていることが分かる。海上輸送と陸上輸送の結節点となっ
ている箇所があり、これらの輸送ルートを壊すのではなく、維持しな
がら鉄道建設を進めていく判断をしたと考えると、築堤にするのが合
理的だったのではないかと想定できる。具体的な文献などの根拠はな
いが、そのように想定したときに、高輪築堤は、憲政以来、高輪海岸
の町場を一気に破壊したのではなく、きちんと近世の庶民の生活に配
慮しながら近代化を進めたとみることにもできる。そう考えると雑魚場
河岸周辺の遺構は、日本の鉄道史のみならず、近世社会から近代社会
への移行のあり方を示す重要な遺構であると考えられる。
- (小野田委員) 図面は非常に貴重である。間違いなく第 5 橋梁の橋台があるといえる
のではないか。それがなければ具体的な図面はかけない。上の図は、
ミリ単位の半端な数字になっておりフィート・インチの図面からメー
トルに換算した図面であると思う。よって、作成年代は昭和 5 年以降
であり、元となるフィート・インチの図面があったと考える。下の図
は、戦後の実態調査の際に、実測と今までの図面を照らし合わせ作成
したもので、切りのよい数字で丸めたものと考えられる。
- (委員長) 薩摩台場については、まだもう少し資料が必要だとも思う。特に近代
以降の変遷が重要になってくると思う。築堤の下限をどこに想定する
かは様々な議論があるが、保存活用計画では大正 7 年ごろまでは築堤
としてとらえるという見解がある。それ以降、昭和にかけてどのよ
うに変遷を遂げたかも、今後の調査を行っていくにあたり事前に抑えて
おかなければならないと思う。雑魚場架道橋は石積みが残っている。
まずは測量をして観察をすることから始めないといけない。
- (JR) 試掘並びに現状把握の測量等について、しっかりと対応していきたい。
可能な限りできることはやっていきたい、調査の計画等、早めにご指

示をいただきたい。

(3) その他

(委員長) その他なにかあるか。

(東京都) 試掘調査の成果を踏まえて港区教育委員会から遺跡地図の変更の協議があった。鉄道用地の中のライナープレートを入れた4か所で石積みがあった。これを受けて検討し、昨日10/3付で、高輪築堤跡(港区No.208)の周知の埋蔵文化財包蔵地に4か所が追加されたことを報告する。

(委員長) 特になければ部会③を閉会する。

<全体会・部会①・部会②・部会③終了後>

(委員長) 最後に文化財行政からコメントをもらう。

(文化庁) 部会①については、西に築堤が広がっていたことは驚いたが、これからも注意して調査を見守っていききたい。また、遺構への軽減措置に感謝する。コクヨさんとの鉛筆の協業の件については、庁内でも報告したい。部会②については、南棟の連壁の設置について早めに試掘位置の協議を進めたい。部会③については、雑魚場橋台が歴史的に重要ということで現状把握を進めてもらいたい。

(東京都) 遺構の保護について、協議いただき感謝する。駅街区の南棟の試掘、アクセス線の試掘、新たな試掘調査の協議が始まるので、港区、委員会と共に綿密に協議を行っていききたい。

(港区) 記憶の鉛筆については、1年半くらい前に相談を受けた。高輪築堤を含め、文化財保護として区民意識の醸成は進めていかなければならないと思っている。このような取り組みを進むながら区民の皆さんの記憶に高輪築堤が残っていけばと感じている。高輪築堤、羽田アクセス線も含め区民はじめ世間の関心が高い。高輪築堤の様相は徐々に分かってきたが、港区も協力して進めていききたい。

(4) 閉会

(事務局) 次回の定例委員会は、11月1日(水)10時00分からを予定し、会場はJR東日本現地会議室を予定する。本日はお忙しい中貴重なご意見をありがとうございました。閉会とする。

以上